

富津市創生会議 会議録

1 会議の名称	富津市創生会議
2 開催日時	令和6年3月27日(水) 午前10時～午前11時50分
3 開催場所	富津市役所1階 大会議室
4 審議等事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針について</li> <li>・第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について</li> <li>・第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画(2024年度当初予算版)について</li> </ul>
5 出席者名	<p>富津市創生会議委員(8名) 青木 和彦、梅内 泉、石井 喜美子、岩井 允、岡田 亮介、小嶋 友子、笹生 一樹、新行内 崇彰、</p> <p>事務局(8名) 市長 高橋 恭市、副市長 小泉 義行、企画政策部長 石川 富博、企画政策部次長 小川 真司、企画課長 秦野 憲一、企画課企画係長 牧野 圭吾、企画課副主査 大野 恵、企画課主事 松井 大和</p> <p>事業担当課(36名)</p>
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当(理由)
8 傍聴人数	2名(定員5名)
9 所管課	企画政策部企画課企画係 電話 0439-80-1223
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

富津市創生会議 会議録

発言者	発言内容
事務局	<p>委員の皆様方におかれましては、本日はご多用のところお集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>本日の会議資料の確認をさせていただきます。着座にて失礼いたします。</p> <p>机上配布させていただいた「会議次第」、「席次表」、「富津市創生会議委員名簿」、「市出席者一覧表」、事前に送付させていただきました「富津市創生会議について」、資料1「第3期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針」、資料2「第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について」資料3「第2期総合戦略新旧対照表」、資料4「第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画（2024年度当初予算版）」以上が本日の会議資料でございます。資料はお揃いでしょうか。</p> <p>1 開会</p>
事務局	<p>それでは、ただいまから、富津市創生会議を開会いたします。</p> <p>はじめに、本日の委員の出席状況を報告させていただきます。11名の委員のうち、小泉委員、島野委員におかれましては、本日欠席となります。また、鈴木委員におかれましては、遅れているようでございます。従いまして、現在の出席者は8名となっておりますので、富津市創生会議設置要綱第6条第2項の規定により、半数以上のご出席をいただいておりますので、会議が成立していますことをご報告申し上げます。</p> <p>続きまして、会議の公開についてですが、本日2名の傍聴者がおりますことをここで報告させていただきます。</p> <p>また、会議録作成のため録音させていただきますのでご了承願います。</p> <p>なお、質疑応答の際は着座にてマイクをご使用いただき、係員へ受け渡しいただきますようお願いいたします。</p> <p>市の担当者が発言する際は、挙手をし、会長に指名された後、所属課と名前を言ってください。続けて、該当する事業について回答願います。</p> <p>また、会議は、途中休憩を入れまして、説明員を入れ替えながら進行してまいりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>2 市長挨拶</p>
事務局	<p>続きまして、開会に当たり高橋市長からご挨拶を申し上げます。</p>
高橋市長	<p>おはようございます。</p> <p>開会に当たりご挨拶を申し上げます。本日は、委員の皆様におかれましては、年度末大変お忙しい中、富津市創生会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>私から2点ほど少し触れさせていただきたいと思います。</p> <p>まず1点目が、先々週であります。富津市の小・中学校におきまして、全校11校で卒業式が行われました。</p>

コロナ禍もありまして、私も4年ぶりの出席となりましたが、4年前と同じく、元気な子どもたちが、力強く巣立っていく姿を見て大変嬉しく思いました。

改めて少ない子どもでありますけれども、子どもの多い地区に負けないように、1人1人に対して、しっかりと愛情を持って、組織として、行政として、地域として、そして親御さんと力を合わせて育てていかなければいけないというのを再確認させていただいたところであります。4月になりますと入学式も行われる予定です。残念ながら卒業した生徒と比べると、どの学校も新入生は少ないという状況がありますけれども、決してそれに悲観的にならずに、今申し上げましたとおり、1人1人の子どもに自信を持って富津市として、富津市の子どもとして育てていただけるような環境をこれからも作れるように頑張っていきたいなと考えております。

また、もう1点につきましては、元旦に発生いたしました能登半島地震であります。

3ヶ月余り経過した現在も、多くの方が避難所生活を送られております。富津市の行政といたしましても、これまで4名の職員を現地に派遣をさせていただいて、復興の支援に当たらせていただいております。

業務内容といたしましては、避難所の運營業務ということで、やはり一番苦しい生活をしている方たちの最前線で職員が見てきたこと、感じてきたことというのは多数あるというふうに感じています。そのようなものが、これからの富津市の防災対応力、減災力に繋がられるものがあれば、しっかりと市としての力としても蓄えていきたいなというふうに思っています。

また、5人目、おそらく今回千葉県が行う支援としては最後だというふうに聞いておりますが、明日から5人目の職員が現地に赴く予定であります。ぜひ、富津市の代表として、しっかりと地域の皆さんに寄り添って対応してくれることを期待しているところです。

さて、そうした中で、本日の会議でありますけれども、本市におきまして市の計画や施策体系の最上位に位置付ける、富津市みらい構想において、富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略を優先計画と位置づけ、この総合戦略の着実な実行が、みらい構想に掲げた市が目指す将来像、「誇りと愛着を持てるまち ふつつ」に繋がっていくものと考え、取り組んでいるところであります。

本日お集まりの委員の皆様におかれましては、様々な分野で活躍いただいている皆様であります。ぜひ、お立場でご忌憚のないご意見を本日はお寄せいただき、この会議が実りの深いものにしていただければ大変ありがたく考えております。

簡単ですけれども、私からの挨拶に代えさせていただきます。

どうぞよろしく願いをいたします。

### 3 会長挨拶

続きまして、青木会長からご挨拶をお願いいたします。

青木会長

皆様あらためまして、おはようございます。  
今日は久しぶりに青空が広がって春を感じる日となりました。  
この中にいるとちょっとわかりませんが、外はとっても気持ちいい日ですね。  
桜の便りというのはまだちょっと来てませんが、きっと入学式を迎える頃には、桜の綺麗な花が咲いてくれるのかなっていうことを期待しているところでございます。  
さて、本日お越しの委員の皆様方には、年度末の大変お忙しい中ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。  
また、高橋市長をはじめ、市職員の皆様方には、市民の安らかな生活に向けて日々ご尽力いただいておりますこと、心よりお礼を申し上げます。  
さて、今日のこの会議、先ほど市長の方からもありましたが、第3期に向けた方針や、また2024年度の計画等につきまして、忌憚のない、皆様方からのご意見を頂戴したいというふうに思っています。  
それぞれの立場で参加をされていると思いますけれども、それぞれの思うところをぜひともご発言していただいて、この会議が有意義になりますことを、ご協力お願いを申し上げます。  
大変まとまりませんが、私からの挨拶にさせていただきます。  
本日もよろしく申し上げます。

事務局

青木会長ありがとうございました。

ここで、昨年7月27日付で、富津市創生会議委員にご就任いただきました株式会社千葉銀行富津支店長 新行内 崇彰様におかれましては、今回が初めての会議参加となりますので、恐れ入りますが、一言ご挨拶いただきたいと存じます。よろしくお願ひいたします。

新行内委員

皆さんこんにちは。千葉銀行富津支店の新行内と申します。  
昨年の4月に、千葉銀行の富津支店に支店長として着任しまして、前回の創生会議につきましては、都合がつかずに欠席させていただいたんですけれども、この3月で丸1年経ちまして、私も銀行の支店長といういろんなお客様のところを訪問したりして、富津市内を車で運転している中で、やはり、この富津市にも非常に愛着が湧いてきているところがございます。そういった中で、地元の地域金融機関として、市内に勤める者として、少しでも富津市の発展のお役に立てるようなことができればというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

事務局

ありがとうございました。  
それでは、ここからは、富津市創生会議設置要綱第6条第1項により、会長に議長となつていただき、進行をお願いします。  
青木会長、よろしくお願ひします。

青木会長

まず、会議に先立ちまして、本日の会議録の署名人を指名させていただきたいと思っております。笹生委員と新行内委員お願いいたします。

4 議題（１）第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針について

青木会長

それでは、議題（１）「第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針について」事務局からの説明を求めます。

事務局お願いします。

事務局

それでは、議題（１）「第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針について」ご説明申し上げます。着座にて失礼いたします。

資料１をご覧ください。

１基本的な考え方として、（１）策定の趣旨と背景ですが、「市民が幸せを感じられるまち」の実現を目指し、各種事業を推進してきた第２期総合戦略が２０２４年度（令和６年度）をもって満了するため、国・県の動向や本市を取り巻く環境の変化を踏まえ、富津市みらい構想との整合を図りながら、２０２５年度（令和７年度）から２０２８年度（令和１０年度）までの４年間で計画期間とする第３期総合戦略を策定するものです。

国においては、２０２２年１２月に従来の第２期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂し、デジタル技術を地方の社会問題解決の鍵として「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す「デジタル田園都市国家構想総合戦略」が閣議決定されました。

本市においても、これまでの第１期及び第２期の取組を、今後はデジタルの力を活用しながら継承・発展させ、今後の４か年の地方創生の指針となる「第３期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定します。

（２）総合戦略の位置づけとして、１ページ下でございます「まち・ひと・しごと創生法」第１０条に基づき策定し、国及び千葉県の「総合戦略」の内容を踏まえ策定します。

また、市の計画や施策体系の最上位に位置づける「富津市みらい構想」に基づき策定するとともに、個別計画との整合性を図っていきます。

２ページをご覧ください。

（３）計画期間ですが、第２期総合戦略につきましては、５年間の計画期間としておりましたが、昨今の社会情勢の変化が早いことや、みらい構想の計画期間が令和１３年度までであることなどを考慮し、第３期総合戦略を２０２５年度（令和７年度）から２０２８年度（令和１０年度）までの４年間とし、その次の総合戦略を令和１１年度から令和１４年度までの４年間とすることで、次期みらい構想を策定した次の年に総合戦略を策定するという流れになることから、計画期間を４年間としております。

次に、（４）推進体制です。

国のデジタル田園都市国家構想総合戦略が、地域の個性を生かしながらデジタルの力によって地方創生の取組を加速化させることを目的としていることを踏まえ、本市の総合戦略の取組を実施するに当たっては、

地方創生担当（企画課）とデジタル担当課（資産経営課）をはじめ、庁内の各部署が連携して総合的に対応します。

3 ページをご覧ください。

2 総合戦略の策定に当たっての（2）基本方針についてですが、現総合戦略に掲げる4つの基本方針にデジタル技術の活用を加えた5つとします。①シティプロモーションによる地域の活性化、②市民参画によるマネジメントサイクル（PDCA）の実行、③経営改革の推進、④広域連携の推進、⑤デジタル技術の活用、の5つです。

次に、（3）4つの基本目標です。

次期総合戦略の基本目標は、「第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標を継承するとともに、国が戦略で示した取組方針を参考にし、各目標においてデジタル技術を活用し、地方創生を加速化していきます。基本目標1子どもの笑顔があふれるまちへ、基本目標2自分のくらす地域を好きになる、基本目標3市の産業、仕事を創る、基本目標4くらしやすく、移住しやすい環境づくりとしております。

具体的な取組として、「行政の取組」、「地域・民間ができること」及び「市民ができること」で構成し、富津市創生会議及び富津市民委員会で議論し充実させていきます。

また、基本目標及び基本的な方向を掲げ、それぞれの進捗状況について重要業績評価指標（KPI）を設定し、達成状況の確認・検証を行うことで、実施する事業等を改善するしくみ（PDCA サイクル）を確立します。

「行政の取組」については、現総合戦略の施策及び事業を基本とし、富津市創生会議で議論の上、その内容を充実させていきます。

「地域・民間ができること」及び「市民ができること」については、アンケート結果等をもとに富津市民委員会において、幅広い市民等から意見聴取し、取りまとめの上、富津市創生会議で議論し充実させていきます。

次に4ページをご覧ください。

策定体制についてご説明申し上げます。

次期総合戦略の策定に当たっては、「次期総合戦略策定に係る市民アンケート調査」「首都圏居住者向けWEBアンケート調査」「転入者・転出者アンケート」を活用するとともに、幅広い意見が反映されるよう「富津市民委員会」で意見交換を行うなど対話の機会を設けます。

また、パブリックコメントにより、市民の意見を聴取します。

5ページにあります策定体制の組織図をご覧ください。

①富津市創生会議については、市のさまざまな分野における有識者で構成する富津市創生会議において、次期総合戦略策定における意見又は助言を求めます。

②富津市民委員会については、幅広い市民からの意見を反映させ、創り上げていくため、市民で構成する富津市民委員会において、現状における課題や解決策について討議します。

③庁内体制については、庁議を、次期総合戦略の策定及び運用に関する全庁的推進体制を確立するため、意思決定機関とします。

担当課長会議では、必要に応じて担当課長会議を開催します。

次に、(5) 策定スケジュールですが、8月までに素案を策定し、9月に庁議、議会、創生会議にて説明を行い、意見等いただき、案を策定後、12月に庁議、議会、創生会議にて説明を行った後、パブリックコメントを実施し、最終調整を行い、3月に庁議、議会、創生会議にて説明を行う予定で進めてまいります。

以上で説明を終わります。

青木会長

ただいま、事務局の説明が終わりましたので、皆様からのご意見ご質問等をお受けしたいと思いますが、挙手にてお願いをいたします。  
岩井委員お願いします。

岩井委員

岩井でございます。本日もよろしくお願ひいたします。  
それでは、まず確認と質問させていただきたいところがあります。  
まずは、体制についてもう少しご説明をいただきたいところがありましたのでご質問させていただきます。  
5ページ目の策定体制の部分について、富津市民委員会というところから、富津市創生会議へ報告があるという位置づけなのですが、もう少し富津市創生会議の役割、担いというものを教えていただけますと助かりますが、いかがでしょうか。

青木会長

はい、事務局お願いします。

事務局

お答えいたします。  
富津市民委員会が出た意見につきまして、取りまとめたものを富津市創生会議の皆さんにお示ししまして、市民委員会で、地域でできること、市民ができることなどの意見を求めますので、そういったものを踏まえて富津市創生会議の委員の皆様にもご意見を伺いたいというふう考えております。

青木会長

はい、ありがとうございます。  
岩井委員いかがでしょうか？

岩井委員

ありがとうございます。  
私もイメージを少しつけたくて、以前の市民委員会の議事録を見させていただきました。とても活発なご意見が取り交わされていたように受けられるのですが、その意見をまとめたものに対して、創生会議で更に意見を質問されるということですか。

事務局

はい、そのように考えております。

岩井委員

わかりました。  
では、その関連した質問よろしいでしょうか。  
次は、4ページ目の策定スケジュールについても一応確認をさせていただきたいのですが、先ほどの内容で、私のイメージではとてもボリュ

ームが大きい内容になってくるのではないかとというふうに、想像しているのですが、スケジュールを見ますと創生会議にて説明の機会が、本日と、それ以降に9月、12月、3月とございます。

今回の2024年度までの計画に対してのご意見、各事業の目標値、達成度取り組み状況についてのご意見、ご質問の機会というのは、別に存在していて、その2024年度の取組についての確認は、別機会になるのかということを確認させていただきたいのですが、いかがでしょうか。

青木会長

事務局お願いします。

事務局

来年度2024年度の事業につきましては、今年度の9月に行ったような会議を来年度の9月の創生会議の際に、2024年度の事業結果をお示しして、そちらについてもご意見を伺いたいというふうに考えております。

青木会長

はい。そうすると両方ということでしょうか。

事務局

はい。

青木会長

両方の内容でということだそうです。

岩井委員

はい。わかりました。

私、一意見ではございますけれども、とてもボリュームが大きくなることが予想されますので、時間的なもの、回数的なもの、何かご協力できることがありましたら、ご協力させていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。以上です。ありがとうございます。

青木会長

他にご質問はございますか。

石井委員お願いいたします。

石井委員

石井でございます。

第3期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針につきまして、5項目にわたり大変詳しくご説明いただきましてありがとうございます。

その中で、国の動きとしては、デジタル技術を地方創生の問題解決に向けての手段というふうなことでお示しになりまして、既に富津市におかれましても、抜本的な改定でデジタル技術の有効活用を図っていくというふうなお考えだということをお伺いしました。

富津市に常住する年齢層は、やはり高齢化が進む中で、新しい人もどんどん入ってもらおうというような中で、これは大変素晴らしい取り組みかと思いますが、デジタル技術を富津市としてどのように活用を図っていくのか、アナログな部分も、後で示していただいている「行政の取り組み」と「地域民間ができること」と「市民ができること」で構成されているというわけで、デジタルの部分とアナログの部分のバランスの良い進め方をお考えになっていると思っておりますが、デジタル技術を富津市に



落としたときに、どんな良い面があるのかということをお伺いできればと思います。

不勉強ですので、まず、基本的なことを教えていただいてから、もう少し深く考えていければなというふうに思いました。以上です。

青木会長

はい、ありがとうございます。

それでは事務局、よろしくお願いします。

事務局

デジタル技術の活用に関しましては、現在、資産経営課の方で、音頭をとって進めているところでございますけれども、デジタル技術活用していく上での方向性として大きく3つあると考えてございます。

1点目は、「デジタル技術の活用による庁内の事務改善、事務の効率化」ということだと思っております。

職員も定数の縛りがある中で、行政に求められている役割が非常に大きくなっているということは日々実感しております。デジタル技術を活用することで、少しでも事務を効率化していくことが必要だろうということで、具体例を2点ほど申し上げますと、会議の議事録の作成に当たって、今までは職員が録音した音声を聞いて、手で文字起こしをしていたのですが、今は、音声データをAIが自動で文章化してくれるという技術がございます。そういったものを活用して自動で議事録を作成するというシステムを導入しております。

その他、昨年春ぐらいに話題になったのですが、ChatGPTという対話型のAIというものがございます。こちらを活用することで、いろんな文章の作成や、アイデア出し、そういったもののヒントになるようなツールがございますので、日々の業務の中で、現在、活用させていただいているところでございます。

2点目といたしましては、「市民サービスの向上」というところが、大きな目標と思っております。

これも具体的な例をいくつか挙げさせていただきますと、例えば行政手続きのオンライン化という取り組みを進めております。

窓口で市民の方に足を運んでいただいて、手続きをしていただくのではなく、マイナンバーカード等を活用しながら、インターネット、パソコンあるいはスマホから、いろんな手続きができるようにということで、現在、例えば、介護や子育て関係の手続き、あるいは転入・転出の手続きがオンラインで、できるようになっておりますし、いろんな給付金というものもコロナ禍の中で、支給をしているのですが、そういった給付金の申請等も、インターネットからあるいはスマホからということで、申請できるような仕組みを整えております。

それ以外にも、例えば電子母子手帳や、ゴミ出しの関係のお助けアプリといったもの、あるいは図書館の関係だと電子図書館という取り組みもしてございます。

それから、学校教育の関係では、GIGAスクール構想というものを国が進めておりますので、教育環境の充実といったところでも、デジタル技術を活用させていただいております。

それから3つ目の方向性としては、「デジタル技術を活用することによる様々な地域課題、政策課題の解決」という方向性があるだろうと考えております。

高齢化が進む中で職員だけ、あるいは地域の皆様だけでは、解決しきれない部分というの、どうしてもマンパワーだけでは解決できない部分も出てきているというふうを考えております。デジタル技術を活用することで、そういったところも効率化していきたいと考えております。

具体的に例えば、今ある取り組みといたしましては、消防本部でドローンを火災現場や災害が起きたときの現場確認等に、活用をさせていただいております。

また、山中奥畑地区の方で、簡易水道を使っていますが、そういった簡易水道の施設管理の部分で AI を活用するというような取り組みも行っております。

この事務改善、それから市民サービスの向上、地域の課題解決というところで、この3つの方向性を今後も進めてまいりたいというふうを考えております。

それに当たっては、委員からご指摘ございましたけれども、あくまでデジタル化することが目標になってはいけないというふうに思っております。当然デジタルに慣れている人、不慣れな人、そういった差はあると思っておりますので、あくまで課題等を解決するためのツールとして、デジタル技術を活用していくという視点が大事だと思っております。

何でもデジタル化すればいいということではなくて、委員からご指摘ございましたとおり、アナログの部分とのバランスというものも考えていきながら、デジタルができる部分、便利にできる部分というものはしっかりデジタル技術を使っていく、そういった視点で進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

青木会長

ありがとうございました。他にございますか。  
それではないようなので次に進めさせていただきたいと思っております。

5 議題（2）第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について

青木会長

それでは、議題（2）「第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について」事務局からの説明を求めます。  
事務局お願いします。

事務局

それでは、議題（2）第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定についてご説明申し上げます。資料2をご覧ください。  
1 改定の趣旨についてですが、今回の改定は、第2期総合戦略に掲げる施策を推進するに当たり、2024年度（令和6年度）における新規事業などで当該施策の推進に資するものの追加となっております。  
次に、2の改定内容について、ご説明申し上げます。  
主な改定内容としましては、事業の追加となっております。

具体的な改定内容は、資料3「第2期総合戦略新旧対照表」にて、ご説明申し上げます。資料3をご用意ください。

それでは、資料3の1ページをご覧ください。

基本目標1の下に掲げる「基本的な施策の方向① 安心して出産、子育てできる環境を整える」における「行政の取組」について、施策1「切れ目のない子育て支援の実施」の事業に、「子ども医療費助成事業（こども家庭課）」及び、2ページに「市立保育所保育 ICT システム導入事業（保育課）」を追加いたします。

次に、3ページをご覧ください。

基本目標3の下に掲げる「基本的な施策の方向② 移住しやすい環境を整える」における「行政の取組」について、施策1「都心へのアクセスの良さと豊かな自然を兼ね備えたライフスタイルの発信」の事業に、「移住・定住促進事業（政策推進課）」を追加いたします。

次に、4ページをお開きください。

基本目標4の下に掲げる「基本的な施策の方向① 働く“場”をつくる」における「行政の取組」について、施策1「雇用ニーズに把握、市内雇用や女性の働く場の創出の促進」の事業に、「奨学金返還支援事業補助金（教育総務課）」を追加いたします。

以上が改定内容となります。

これで説明を終わります。

青木会長

ありがとうございました。

ただいま事務局からの説明が終わりましたが皆様方のご意見、ご質問等ございますか。

ないようなので、次に進めさせていただきたいと思います。

## 6 議題（3）第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画（2024年度当初予算版）について

青木会長

それでは、議題（3）「第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画（2024年度当初予算版）について」事務局からの説明を求めます。事務局お願いします。

事務局

それでは、議題（3）第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画（2024年度当初予算版）についてご説明申し上げます。

資料4の冊子の93ページをお開きください。

一例として、「ふるさとふつつ応援寄附」のシートとなりますが、今回策定しました「2024年度当初予算版の実行計画」は、昨年度末に策定の「2023年度当初予算版の実行計画」について、年度別事業内容、事業の自己評価、事業成果等を、2024年度当初予算等の内容に更新し、各事業の目標値、達成度、取組状況について取りまとめたものです。

また、シートが一番下になりますが、各年度の実績について、その達成状況をAからDの4段階で記載しております。

本実行計画につきまして、委員の皆様からご意見等をいただき、今後の事業実施の改善方策として取りまとめてまいります。  
以上で、説明を終わります。

青木会長

ありがとうございました。  
ただいま事務局から説明が終わりました。  
まず初めに、基本目標1そして基本目標2についてご意見等いただきたいと思います。  
資料につきましては12ページから71ページまでとなりますのでよろしくお願ひいたします。  
ご質問、ご意見いかがでしょうか。  
笹生委員お願ひします。

笹生委員

竹岡郵便局の笹生です。本日はよろしくお願ひします。  
28ページの家庭教育支援の充実ということで、こちらの成果の方ですけども、年々相談件数の方が増えてきていまして、それにおけるサポーター数が、2023年度は見込みですが、3分の2っていう形になっていまして、サポーター数を見た限り、少ないように感じたのですが、こちらサポーター数を今後増やしていくのか、また確保に対してどういった取り組みをするのかっていうのが、もしありましたら、お聞かせいただければと思います。

青木会長

ありがとうございます。  
それでは担当部署の方よろしくお願ひします。

生涯学習課

家庭教育支援事業の相談件数については、家庭教育指導員が、こども家庭課と連携しまして、家庭教育支援に係る相談を受けた件数になります。一方でこのサポーター数というのが、同じく家庭教育支援指導員と支援員によって、放課後の安全安心な子どもの居場所の提供ということで、放課後ルームというのを週3回行っています。その運営に関わる職員として、ボランティアで地域の方々に協力をお願いしているんですけども、そのサポーターということになりますので、相談件数とサポーター数というのは、繋がらないものです。サポーター数については、ご協力いただくのがなかなか難しく、数字は伸びていきませんが、引き続き人数の確保に努めていきたいと考えております。以上です。

青木会長

はい。ありがとうございます。  
笹生委員いかがでしょう。

笹生委員

わかりました。ありがとうございます。

青木会長

他にご質問ご意見ございますか。  
新行内委員お願ひします。

新行内委員

15 ページの第三子以降の保育料、入園料の無料化についてです。まずお聞きしたいところが、この事業を実施したことによりまして、実際にその第三者委以降の子どもがいる家庭がどのくらい増えたのかっていうのが、もしわかれば教えていただきたいと思います。

それと、これは質問というよりは意見みたいな形になるんですけども、保育園の入園料に限らず子どもにかかる教育費というのは、とても高くなっております。

資料の 29 ページでも、富津市では、小中学校の給食費の無料化等の対策も行っていただいているということでございます。

しかしながら実際、より教育費がかかるのは、高校とか大学で相当な学費の負担になっていると思います。

当然国の制度として、高校の無償化ですとか、今後大学の無償化の方も、2025 年から始まるというような話もありますけれども、所得制限や子どもが 3 人以上の条件などの縛りもあり、まだまだ制度として十分ではないのかなと思っております。

国や県や市が連携して、こういった問題にもっと取り組んで、もっと幅広い世代で、高校とか大学の授業料の無償化っていうものを享受できるようにならないと、少子化問題というのはなかなか解決していかないのではないかなというふうに思っています。

当然、富津市として、そういったことをやっていただいているということですが、国として、全体の出生数を上げていくということができないとなかなか根本的な解決にはならないと考えますと、市としても、県や国に対して、そういった働きかけをして連携して施策を図っていくということが必要なのかなと思っております。

以上でございます。

青木会長

ありがとうございます。

ご質問は、第 3 子以降がどのくらい増えているかということをお伺いすればよろしいでしょうか。あとはご意見ということで担当の方、よろしく申し上げます。

保育課

施策を実施した結果、第 3 以降何人の子どもが増えたかという数字ですが、手元に数字がございませんので、後ほど報告させていただきたいと思います。申し訳ございません。

こちらの第 3 子以降の保育料、入園料無料化と言いますのは、国の政策もありまして、国は年齢制限を設けております。その年齢の制限を撤廃して、市独自でこういった施策を実施しております。今後も県や国に対していろんな機会を得まして、要望等していきたいと考えております。以上でございます。

青木会長

はい、ありがとうございます。

新行内委員いかがですか。

新行内委員

ありがとうございました。

昨日、発表された公示地価で、県内で最も高い上昇率だったのが流山市だったということで、今日新聞に出ていましたが、流山市は、都心へのアクセスの良さというところで人気はもちろんあるんですけども、それに加えて、子育てのための施設とか、制度がすごく充実しているというようなことが、その人気の1つとも書いてありました。具体的な制度は、私も存じ上げないのですが、子育て世帯にとっては、そういった施設、制度というのが充実しているというのは、住まい選びにとって、すごく重要だと思いますので、富津市におかれましても、ますますそういった子育て支援を充実していただきたいと思いますと思っております。

以上でございます。

青木会長

貴重な意見ありがとうございました。

他にご質問ご意見等ございますか。

小嶋委員お願いします。

小嶋委員

特別養護老人ホーム望みの門紫苑荘の小嶋と申します。

よろしくお願いいいたします。33 ページの子育て講座の開催というところでご質問したいのですが、子育て応援動画配信本数ということで、23年度の実績見込みは4本中0件というところで、ちょっと残念だなということです。2022年度などは離乳食とかベビーヨガ、クリスマスリースの作り方などを動画配信されていたようなのですが、2023年度について、配信が0件だった理由と、子育て世代に、どんなことに興味を持っているのか、そういうアンケート等は取られているのかということと、あと、講座を開設されているようなので、それを動画配信されたらどうなのかなと。ソフトウェアの使用料もかかっている状況もありますので、2024年度はどのような形で取り組まれていくのかについてご質問をさせていただきたいと思います。

あと61ページの富津市いきいき100歳体操というところで、私は高齢者の施設の者なので、やっぱりいきいき100歳体操の参加グループとか、参加人数がかなり増えてきているということで、高齢者の方が元気で生活できているということがやっぱり市にとっても大事なことかなと思ひまして、ご本人や高齢者の方が在宅で生活するというのが一番理想じゃないかなと思っています。

住み慣れたところで、自分らしく生きていく、生活できることが長生きの秘訣にもなるのかなというところで、参加者についても2024年は47グループで、だんだん増えていく形なので、これはぜひ今後も活動して、高齢者の方も元気でいられるということが市にとってもいいのかなというふうに感じましたので、継続していただきたいと思います。

以上2点です。

青木会長

はい、ありがとうございました。

まず初めの33ページの件ですけども、実績が0件というのはなぜかということと、また、どんなことに興味があるかアンケートを取って

るか、また、講座等の配信については、どのように考えているかという3点のご質問とご意見ということで、担当部署の方をお願いします。

こども家庭課

子育て講座の2023年度実績見込みが0件ということについて、今年度は、コロナが明けまして、カナリエでイベントや教室が、本格的に開催できるようになってきましたので、徐々にシフトしているような形になります。

今年度試験的に実施した取り組みといたしましては、プレパパ講座というものを開催させていただきました。

このプレパパ講座では、これから赤ちゃんを迎えるパパさん向けに先輩パパさんから、赤ちゃんを迎えたときの生活のリズムや迎えるに当たっての心構え、あるいは、実際に育児休暇を取得している男性にも、プレパパ講座に参加していただき、先輩パパさんからいろんな知識や情報を交換させていただくというような場を設けさせていただきました。

来年度以降は、参加された方のご意見等もお聞きしながら、本格的な実施に向けて努めていきたいなというふうに考えております。

それからアンケート調査の件につきましては、現在、子ども・子育て支援事業計画というものを策定して、様々な子育て施策を実行しているところですが、この計画が令和6年度末で終了することから、令和7年度の次期計画に向けて、保護者の方から子育てに関するニーズを伺うためのアンケート調査を実施しているところでございます。

このアンケート調査の結果を踏まえて、保護者の方のニーズを反映した次期計画を策定していきたいと考えております。

講座の配信につきましては、カナリエで実施している様々なイベントや教室がありますので、そちらを活用し連携をとりながら配信に向けて努めていきたいと考えております。

青木会長

ありがとうございました。小嶋委員いかがですか。

小嶋委員

ありがとうございました。カナリエにお越しできる方はいいですけど、それに参加できない方に対して、動画配信やX(旧Twitter)もあるので、そういうところで情報発信していただければいいのかなと思いました。よろしくをお願いします。

ありがとうございました。

青木会長

はい、ありがとうございます。  
他にご質問ありますでしょうか  
笹生委員をお願いします。

笹生委員

57ページの地域防災力を高める各種講座の実施、自主防災組織促進事業に関してご質問させていただきます。

こちらの中に、出前講座がありまして、私も先月、地元の自主防災組織で受講しまして、大変感銘を受けたのですが、出前講座の今現在の利

	<p>用率がどのようになっているのかっていうのをお聞きしたいと思います。</p>
青木会長	<p>ありがとうございます。 担当部署の方よろしくをお願いします。</p>
防災安全課	<p>ご質問の出前講座ですが、57 ページにあります、一番下の事業成果、防災訓練実施地域団体数に、今年度 20 団体とございます。これが出前講座の中に地区防災訓練というのがございまして、今年度は、20 団体からお申し込みがあり、実際に訓練をさせていただきました。 訓練内容としては、災害の図上訓練をやらせていただいて、自主防災組織が、実際に災害が発生した際に、地域の中核となる組織ですので、訓練のために活用していただいております。</p>
青木会長	<p>ありがとうございます。 20 という数字が出前講座の数ということでよろしいですか。</p>
防災安全課	<p>出前講座としましては、この地区防災訓練の他に防災学習会ですとか、自主防災組織の活動という項目があるんですが、今年度につきましては地区防災訓練の 20 というのが、最も多い回数となっております。</p>
青木会長	<p>ありがとうございます。</p>
笹生委員	<p>私も受けたときに、実際、自分が住んでいるところの地図を広げまして、それでグループ分けして、やった内容としましては、自分の住んでいる地域の災害が起こりやすい場所を、そこに住んでいる人たちで検討して、わかり合うというとても素晴らしい内容でした。昔から住んでいる人とかは、結構わかりますけれども、新しく来られた方は、やっぱり枝道とか災害が起こりやすい場所っていうのは、わからない場合がありますのでぜひ、この出前講座をどんどん広げていただければと思います。ありがとうございます。</p>
青木会長	<p>ありがとうございます。 他にご質問ありますでしょうか。 石井委員をお願いします。</p>
石井委員	<p>42 ページの生活困窮者の自立支援事業の中で、今年度の事業の自己評価で、生活困窮世帯の小学 4 年生から中学 3 年生において、各学習支援や居場所を提供して、なおかつ高等学校への進学率は 100%と、大変素晴らしい目標を掲げながら、進めていらっしゃるわけですし、今後も引き続き関係機関との連携により周知方法等の工夫により、多くの支援を広げていきたいというふうな自己評価を書いております。 ここで伺いたいことは、市全体としてどのくらいの生活困窮者、といっても、当事者の意識によっては、お子さんを預けなくても何とか</p>



やっしていけるご家庭もあれば、やっぱり支援を受けなければ子どもをきちんとした学びに導いていけないというのは、保護者様の意識もあると思います。現在のところ市内で、差し支えなければ、どのくらいの人数の児童生徒が利用されているのかというのが一点と、それから、このような利用の場を提供するに当たり、どんな働きかけをされているのか、また、ご苦労話もあればお伺いしたいと思います。

青木会長

ありがとうございます。  
それでは、この2点につきまして、お願いします。

社会福祉課

まず、対象の世帯数ですけれども、この事業は、生活困窮者の世帯を対象にしております。条件が3点ございます。

対象としているのが、生活保護を受給している世帯、もしくは児童扶養手当を受給している世帯、または就学援助制度を利用している世帯を対象にしておりますので、全ての方が参加できるというものにはなっておりません。

対象数ですが、所管している部署から対象世帯の名簿をいただきまして、重複する世帯もおりますので、約200件の方に対して、こちらから個別にお手紙でご案内させていただいております。

また、どうしても対象が絞られるというところで、広くアナウンスすることが難しいので、今年度から、利用されている世帯、お子さんがいる学校をお伺いして、生徒さんの様子の情報共有を図ったりしています。学校の先生等ですと、この事業を知らなかったという方がほとんどだったので、もし先生方に相談等があったら、こういった事業があるということをご提案できるよう、この制度を広く周知してほしいというところで、今年度から学校の先生にも説明させていただきました。また、保護者が利用されるであろう関係団体（児童相談所）や、お子さんが利用されるであろう相談機関などに、今年度事業をご案内させていただき、リーフレットを置いて欲しいというところで依頼させていただきました。以上です。

青木会長

ありがとうございます。  
石井委員よろしいですか。

石井委員

どうもありがとうございました。  
自分もかつて学校に勤めさせていただいたときには、本当にもう少しお勉強にふさわしい環境であれば、この子はもっともっと自分の力を発揮できるんじゃないかなというお子さんもたくさん関わらせていただきました。

そういう中で、社会福祉課さんが学校に一步踏み込んでくださったことによって、周知の方法も広がりまして、教職員の方も知らなかったというのは、自分もその1人だったと思いますので、ぜひ子どもの将来を見据えた中で、子どもの大事な時期のサポートというのは、貴重な場

だと思しますので、今後ともご苦勞多いかと思ひますけどもよろしくお願ひいたします。以上です。

青木会長

そのほかございますか。  
では、岩井委員お願ひします。

岩井委員

先ほど小嶋委員のご質問にあった 33 ページの件で、どうしてもちょっとお伝えをしておきたかったのが、ご意見を言わせていただきたいなと思ひます。

前回の創生会議の際に、評価方法について、私からもご指摘をさせていただいたところでもあります。

その内容に関しては、コロナ禍のため、子育て関連講座とその参加者数がゼロになってしまっているというところで、動画配信をしていましたということでしたので、取り組みについてゼロという記載は、何もしてなかったという記録になってしまうので、勿体ないということをちょっとお話しさせていただいたところです。

今回、記載方法が動画はゼロで講座を行った、イベントを行った、ということであれば、そちらもやはり評価、事業成果の方に反映された方が、私は今後、この資料を見返したときに、よろしいのではないかなというふうに思ひました。なので、前回私の方で指摘させていただいたことが仇になってしまったのであれば、大変恐縮ではございますけども、意見として結果の成果の方は記載していただきたいという点と、もう一つ、イベントの中で、防災訓練というものがあって、それは出前講座のことを指していたんだなということが先ほどの質問の中においてわかったところでもあります。

それ以外でも様々なイベントが子育て世代に対してのイベントをやられているということで、私も非常に心温まるいい取り組みだなというふうに感じております。

その中で、参加される人たちの中に、企業にお勤めの方、いろいろな方がいらっしゃる中で、寄附金とか協賛金を募られていらっしゃるのかなという点です。もし、されていらっしゃらないのであれば、寄付したいという方もいるかもしれませんので、その窓だけは開けていただけたらなというふうに思っております。

私は、そのイベントの中で、協賛、寄附等どんなものでも協力したいなと思ひましたので、ぜひそういう機会の窓を開けていただけたらいいなという意見です。

青木会長

はい、ありがとうございます。よろしくお願ひします。  
基本目標 1、2 の関係は以上でよろしいでしょうか。  
それでは、ここに一旦終了させていただきまして、休憩を挟みたいと思ひます。

—休憩—

青木会長

それでは、再開させていただきたいと思います。まず、事務局から連絡がありますので、よろしくをお願いします。

事務局

事務局から連絡いたします。

説明員を入れ替えましたので、発言方法について再度ご案内させていただきます。

質疑応答の際は着座にてマイクをご使用いただき、係員へ受け渡しいただきますようお願いいたします。

市の担当者は、発言する際は挙手をし、会長に指名された後、所属課と名前を言った後、該当する事業について回答をお願いいたします。以上です。

また、先ほどの基本目標1での質問への回答の準備ができましたので、先にお答えさせていただきます。

保育課

実行計画15ページの第3子以降の保育料、入園料の無料化の関係で、第3子以降、この政策を行ったところどのぐらい出生数があったのかについてご質問いただきましたが、数字がわかりましたのでお答えさせていただきます。

第3子以降を授かった世帯数でお答えさせていただきますが、令和4年度は、41件。令和5年度は、参考までに35件となっております。

今後こういった数字も注視してまいりたいと思っております。

以上でございます。

青木会長

はい、ありがとうございました。

それでは、会議を再開させていただきます。

基本目標3、4につきまして、資料は74ページ以降となります。

ご質問ご意見等よろしくをお願いいたします。

岩井委員をお願いします。

岩井委員

それでは83ページの移住・定住促進事業について、冒頭でご説明のあった新しい事業となると思うのですが、この件について、もう少しご説明をお願いしたいと思います。

まず、こちらの事業目的は、県外の大学や専門学校に行く際に、交通費の一部を補助するという事で、結果的には、その方が富津市から外に出ないようにというように読み取れるのですが、まず県外の大学や専門学校とありますが、県内の大学や専門学校に行かれる方々は、対象外となってしまうのでしょうか。というご質問がまず1点です。

それに対して、交通費を一部補助するという事は、子育て支援に繋がるということも、事業全体の内容の中に記載しておりますけれども、やはりそれであるならば、県外に行かれる方ではなくて、県内の例えば千葉市とか市川市などの他市に行かれる方々が、対象にならない理由というものがもう少し明確でなければならぬのかなという気はいたします。なので、そちらの理由もあわせて教えていただきたいというふうに思います。

あと、事業の成果と予算でありますけれども、利用人数が20名と事業費が600万円程ということなのですが、こちらの積算根拠やどういう進め方をされていくのかという計画を教えてくださいたいと思います。

青木会長

はい、ありがとうございます。  
担当部署の方よろしく申し上げます。

政策推進課

まず1点目の県内に通学される方は対象外かというご質問に対して、お答えさせていただきます。  
こちらの制度は、岩井委員にお話しいただいたとおり、県外の方を対象としております。まず、なぜ県外を対象にしたかといいますと、市内から県外、東京都や神奈川県に通学される方は、JRと高速バスというこの2つの移動手段があると思います。  
JRですと金額的には、高速バスの利用に比べまして、安いものであり、高速バスを利用するとJRと比較して高くなってしまおうという点がございます。併せて時間について比較すると、通学をするに当たって、高速バスを利用すると通学の時間もJRと比べて短くなりますので、高速バスが移動のひとつの手段となっています。そちらを考慮させていただいたときに、高速バスの費用は、JRと比べて高くなっているため、補助したらどうかということで検討させていただきました。  
県内ですと、高速バスよりJRを使って移動される方が多いのではないかとということで、高速バスで県外に通学される方を対象とさせていただきました。  
2つ目の、県内の千葉市や市川市等の方を対象としないのはなぜかというのは、先ほど申し上げたとおり、JRを使って通学される方がいらっしゃると思いますので、高速バスと比べたときに、JRの利用料金の方が安いというところで、現時点では、JRを使った方は対象外とさせていただいてございます。  
3つ目の、積算根拠になりますけれども、月額25,000円を上限とさせていただきます。1年分を20名にという計算させていただきます。600万円と積算させていただきます。以上となります。

青木会長

はい、ありがとうございます。  
県内に出ない理由というのは、要は高速バスの料金を補助するという考え方だからということなのではないでしょうか。

政策推進課

はい。おっしゃるとおりです。

青木会長

ありがとうございます。  
岩井委員いかがでしょうか。

岩井委員

ありがとうございます

確かにおっしゃるとおり、高速バスと JR とでは、費用の差があるなどというふうに納得、承知いたしました。

では、もう一方のこの利用人数の 20 人という人数に対して、どのようにして 20 人、もしくは、該当者が既に 2024 年度はいらっしゃるのか、ということも併せて確認をしたいのですが、いかがでしょうか。

青木会長

はい。お願いいたします。

政策推進課

人数につきましては、近隣の君津市で同様の事業を既に実施してございまして、君津市も初年度は、10 名程度からでしたが、現在は、人数が増えているということで、富津市もどれぐらいの方が高速バスを使って通学されているか調査をさせていただきました。

令和 3 年度、4 年度と年間で 10 名程度が、高速バスを使って通学されているということがわかりました。そこに、これから利用されるであろう方を含め 20 名で予算の積算をしました。

青木会長

岩井委員よろしいですか。

岩井委員

隣の君津市で実績があるということで承知いたしました。

では、君津市において、この事業で定住するという実績もあったのでしょうか。というのも、これをやることによって、目的が達成できるのかを検証しないといけないのではないかと思います。補助金を出すこと自体が目的ではないと見てとれましたので、その実績においては、どうなのでしょう。大学近くにアパートを借りて住んだ方がいい、という方もいらっしゃいますので、こういう補助事業をやるのであれば、もう少し明確な回答というか、望まれる実績が欲しいなと思います。いかがでしょうか。

青木会長

担当部署の方、お願いします。

政策推進課

君津市の実績で明確な数字は出ていませんが、高速バスの補助金を使って通学をされていた方で、10 名程度が市内に定住をし、就職しているとのこと。以上です。

青木会長

はい、ありがとうございます。  
他にご質問ございますか。  
岡田委員お願いします。

岡田委員

はい、92 ページをお願いいたします。

商工振興関係費に関してなんですけど、2023 年度のみ、下から 2 行目のキャッシュレス決済と DX 普及活用事業費で 60 万円ほど積んであることが見て取れるのですけども、非常に大事な政策であると理解しています。

逆に 2020 年から 2022 年度までは行われておらず、まだ 2024 年度の予定もされていないとのことで、2023 年度の単年度の何か政策として、

このキャッシュレス決済、DX 普及活用推進事業というので 60 万円ほどをご用意したということについて、何か違和感を感じました。国費なのかなとも思いましたが、金額が微妙だったので、何かこの年、単体で実証事業等だったのか、これについて結果が良ければ 2024 年度以降もキャッシュレス決済の普及に向けて、事業費を打つような予定はあるのか、というところをお伺いしたいのが 1 点と、同じ表の一番下、事業承継セミナー参加数が 2023 年度は、ゼロになっているというところで、非常に大事な事業だと思いますが、こちらは何か別の KPI に振り替えたのか、何かあれば教えていただきたいなと思いました。

以上 2 点です。

青木会長

ありがとうございます。  
担当部署の方、お願いいたします。

商工観光課

キャッシュレス決済の件でございますが、現在プレミアム付デジタル商品券の利用が 3 月 21 日から始まっています。

この事業は、国の物価高騰に関する重点支援で、交付金を利用しております。

今回のデジタル商品券は、スマートフォン型と QR カード型の 2 種類があり、スマートフォンを活用して決済することができ、デジタル化に向けて一歩前進することができました。

今後、引き続き実施するかについては、現時点では未定ですが、検討していきたいと思っております。

次の質問ですが、事業承継セミナーの延べ参加者数で 2023 年度の実績がゼロというところで、こちらに関しては、2020 年度、2021 年度に関しては、商工会で実施しておりました。2022 年度から商工会と富津市と包括連携協定を結ぶ三井住友海上火災保険株式会社とで事業承継のセミナーを行っていました。

2024 年度からは、富津市だけの事業になりまして、引き続き、市と包括連携協定を結ぶ三井住友海上火災保険株式会社と連携して行いましたが募集がありませんでした。これは、今後の課題として来年度以降、周知等検討してまいります。以上です。

青木会長

ありがとうございました。岡田委員いかがですか。

岡田委員

ちなみにこのセミナーは、承継する側に対してのセミナーという理解で合っていますか。

商工観光課

はい。

岡田委員

ありがとうございます。

青木会長

他にご質問ございますか。  
石井委員お願いします。

石井委員

95 ページの事業です。産地パワーアップ事業というようなことで、既に 2020 年度からこの事業を推進されているわけですが、事業内容を拝見しますと、地元の JA とか、漁協、商工会、観光協会、諸々の組織団体と連携した地場産業の発展に向けた事業だと思うんですけども、残念ながら希望者なしというのが、遡って 5 年間続いているわけです。

せっかく、このような良い事業で富津市の魅力をアピールする 1 つのツールとして、良いと思うんですけども、希望者なしということは、具体的にどんなことが課題なのかということをお伺いしたいと思います。

青木会長

ありがとうございます。  
担当部署の方、お願いします

農林水産課

産地パワーアップ事業につきましては、毎年夏の時点に翌年度の事業の活用、要望調査を実施しております。

市内の認定農業者や認定新規就農者向けに個別に郵送で事業の案内を送っていきまして、活用の要望が上がってきた方については、事業採択に向けて計画を作成したり、協議を進めております。

この事業につきましては、国の補助事業になるんですけども、事業を採択されるための事業計画、成果目標の中で、生産コストの削減や販売金額や所得の向上といった、いくつかの項目がありまして、農業者の方と打ち合わせをしながら採択されるような計画を立てられるように、支援を進めております。しかし、事業の採択されるための要件のハードルが高いというのは感じているところでございます。

例えば、農業機械トラクターや、ハウスを建てたいですとか、そういった要望は、いただいている方もおられますので、この事業に関わらず、他の例えば、県の単独補助事業ですとか、そういった事業の活用も視野に入れて、農業者のニーズに合った事業採択に向けて、農業者の方と調整を進めていきたいと考えているところです。

青木会長

ありがとうございます。  
石井委員よろしいですか。

石井委員

はい、ありがとうございました。

鈴木委員が、専業農家として、ものすごく頑張ってもらっているようなご意見も伺っていますが、富津市の農業も支えていく、今後支えていく若手の皆さんも、ぜひこういったパワーアップ事業を受けられるような何か体制作りっていうものも、これから市として広報等、教えていただけたらありがたいなと思います。私の住んでいる近くでは、今まで見晴らしが良かったところに、最近、ぶどう棚がたくさんできていますし、ソーラーパネルが色々なところで見えてきたり、今まで畑や田んぼだったところが、これは社会背景、社会情勢から仕方がないんですが、やはり富津市の良さとしてのこの農業の支援というのも、この事業だけではなく、サポートしていただけたら大変ありがたいなと思います。

<p>青木会長</p>	<p>以上です。ありがとうございました。</p> <p>はい。</p> <p>他にご質問ございますか。</p> <p>新行内委員お願いします。</p>
<p>新行内委員</p>	<p>84 ページのステイふつつ移住促進事業について教えていただければと思います。</p> <p>事業成果として、移住相談、市内案内の件数が16件ということで目標を30件としている中では、もう少しというところだったかと思います。逆に、16件相談があったということなので、この16件の相談の内容について、具体的に富津のどういった地区や、どのような立地を希望している方が多かったのかなどの相談内容の分析がありましたら、今後に生かしていただくことになるとと思いますので、教えていただければと思います。</p> <p>もう1つ、君津市で、都心に住む子育て世帯に移住体験をしてもらう保育園留学を実施したという記事が先日新聞に載っておりました。こういった活動は、富津市でも、移住促進に役立つとお考えでしょうか。また、今後取り入れていこうというお考えがあるのかというところも教えていただければと思います。</p>
<p>青木会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>担当部署の方、お願いします。</p>
<p>政策推進課</p>	<p>まず、1つ目のどのような立地を希望されている方が多いかというご質問ですが、2通りございます。</p> <p>1つ目は、都会でお仕事をされている方で定年を迎えて田舎でゆっくり暮らしたいという方です。</p> <p>そういった方々は、車が必要な生活に普段慣れていないので、富津市でいう富津地区のような、市内の都心部を希望される方が多いです。</p> <p>また子育て中心に考えられている方は、都会では窮屈な生活を強いられているので、田舎に移住して、小さいお子様たちが元気に遊べるような生活を考えている方が多いです。そういった方は、立地の希望は特にありませんが、農業体験ができる場所や家庭菜園ができるようなところを希望されている方が多いです。</p> <p>2つ目に、君津市で行った、移住体験をしてもらう保育園留学を今後富津市でも、このような事業を行うかについての回答いたします。現在富津市では、宿泊して保育の体験をするということはありませんが、移住コンシェルジュが、富津市で移住を希望される方に、事前にどういったことを知りたいか、富津市のどういったところに暮らしたいかという希望を伺って、その方のオーダーメイドの市内案内ツアーを実施しております。</p> <p>例えば、お子さんがいる方は、保育施設の風景を見たいとか、実際に保育所の先生方とお話をしたいという希望がありましたら、案内ツアー</p>



に組み込み、保育所や幼稚園の先生方にご説明をいただいて、富津市へ移住をした際、子育てや、保育所等でこういったことを体験できますよというような形でお話ができる機会を設けてございます。以上です。

青木会長  
はい、ありがとうございました。  
新行内委員いかがですか。

新行内委員  
ありがとうございました。

青木会長  
はい、ありがとうございます。  
他にご意見等ございますか。  
副会長お願いします。

梅内副会長  
梅内でございます。この項目で移住・定住と富津の魅力を発信していくという取り組みと、移住促進ということで、様々な取り組みをされておりますけど、コロナ明けぐらいのときにワーケーションという、バケーションしながらリモートで働くことが流行りました。そういったワーケーション的なものの取り組みを1つのきっかけとして、例えばWi-Fiを強化したり、公共のものを増やしたりしていくのもいいのかなと思いました。これからは、働き方が色々と変わってくるので、その隙間の部分を細かく取り組みに入れていくと、少しずつでも移住のきっかけ作りの1つになるのではと思いました。

青木会長  
他にごございますか。  
それでは、以上で議題（3）第2期富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画 2024年度当初予算版について終了とさせていただきますと思います。

## 7 その他

青木会長  
それでは、本日の議題については全て終了しましたが、その他として委員の皆様から何かございますか。  
事務局から何かありますか。  
では、事務局からお願いいたします。

事務局  
次回の会議につきましては9月頃を予定しております。あらためて通知させていただきますのでご承知おきください。

青木会長  
はい、ありがとうございます  
それでは、以上をもちまして全ての議事を終了させていただきます。本日の議事の内容につきましては会議録の確認をもって取りまとめさせていただきますので、ご了承お願いいたします。皆様にご協力いただきまして、大変多くのご意見ご質問等いただき本当にありがとうございました。

	<p>それではこれにて進行を事務局にお返しいたします。 よろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>8 閉会</p> <p>ありがとうございました。 閉会に当たりまして、小泉副市長からご挨拶申し上げます。</p>
小泉副市長	<p>委員の皆様には、長時間にわたり活発なご議論、多くのご意見をいただき、誠にありがとうございました。</p> <p>会議冒頭にも市長から申し上げましたが、富津市みらい構想において市が目指す10年後の将来像を「誇りと愛着を持てるまち ふつつ」と掲げさせていただいております。</p> <p>この将来像の実現に向け、職員一丸となりまして総合戦略の着実な実行に取り組んでまいります。委員の皆様におかれましても、引き続き市政発展のためご理解、ご協力をお願いいたしまして、簡単ではございますが、私から挨拶とさせていただきます。</p>
事務局	<p>それでは、以上をもちまして富津市創生会議を終了いたします。 本日は誠にありがとうございました。</p> <p>(終了時刻 午前 11 時 50 分)</p>

以上